

R I をめぐる課題について

原子力委員 佐野利男

1. 「世界の中の日本」という視点が必要ではないか

- 1) 現状認識において、日本はR I の供給体制が周回遅れだが、なぜ諸外国に遅れたのか。その原因究明がそのまま日本が抱える問題点を抽出することになる。各国との比較において行政が問題なのか、医療体制の問題なのか、その他の点か。
- 2) 例えば、現在アクチニウム 225 やモリブデン 99 の輸入先である欧米諸国が今後どのような供給計画を有しているのか、ある程度の期間日本が依存し続けられるのか。日本にとってどのようなタイムラインで自給率を上げていけばいいのか。猶予期間はどの程度あるのか。
- 3) I A E A との連携協力につき具体的にどのようなことが期待できるのか。情報の共有か、研究協力か、教育・人材の育成か、その他の点か。

2. 国の役割の明確化が必要

- 1) オールジャパン体制を構築する上で、国の役割は何か。医療界、産業界の国に対する期待は何か。
 - オールジャパンの調整役か
 - 規制緩和か
 - 補助金の供与か
 - 既存の施設（常陽、J R R - 3 など）へのアクセサビリティーか
 - 医薬品・医療機器総合機構における承認審査体制の整備か
 - 世界的な製造開発競争を勝ち抜くため J A E A や Q S T への研究支援か
 - その他
- 2) 諸外国との比較で特に日本が劣位にある点は何か。
- 3) 福島の「国際教育研究拠点」で本件が主要研究課題となりうるのか（放射線科学・創薬医療分野での研究）。

3. 経済安保の観点

- 1) サプライ・チェーンの問題としての認識は共有されているのか。輸入先の多様化、国内需要の一部でも国内供給で対応し、自給率の向上が必要。
- 2) 経済安保として認識された場合、そのほかに国としてどのようなアクションを取りうるのか。

4. 将来の輸出戦略

どの程度のタイムラインでこの問題を考えるのか。10年か、20年か、50年か。その将来に国内需要がどの程度見込まれるか、余剰を輸出するという発想ではなく、当初から世界の需要を前提に我が国の「輸出戦略」を建て得るのか。

5. 短期、中期、長期的課題の峻別化

- 1) 緊急避難的にモリブデン 99、テクネチウム 99m やアクチニウム 225、アスタチン 211 の自国生産・自給率を上げるために何をすべきか（研究炉や加速器の活用による、ある程度安定した国内供給体制の確保）。
- 2) 中長期的課題（R I 人材育成、放射性廃棄物の扱いなど）として腰を据えた対応が必要。

（了）